

## 2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 12 日作成)

委員会名	空間構造における計算機応用小委員会	主 査 名： 村田 賢
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名： 西川孝夫 主 査 名： 坂 壽二
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	シェル・空間構造の設計・施工における計算機利用の実態を調査・整理することによって、関連分野の技術者・研究者に最新情報として提供する。 (初年度：調査項目の整理と調査方法の検討、 2 年度：利用実態の調査 3 年度：項目別の整理と課題の抽出、 4 年度：成果報告書のまとめ)	
委員構成 (委員名(所属))	村田 賢(名城大学)、元結 正次郎(東京工業大学大学院)、武藤 厚(名城大学)、大森 博司(名古屋大学大学院)、本間 俊雄(鹿児島大学)、松井 徹哉(名城大学)、内山 学(清水建設)、内海 良和(大林組)、坪田 張二(鹿島技術研究所)、岡村 潔(竹中工務店)、水谷 太郎(大成建設)、向山 洋一(巴コーポレーション)	
設置 WG (WG 名：目的)	(なし)	
2003 年度予算	100,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	本年度は、主として小委員会の成果のまとめである出版企画についての具体的な作業を各委員が進め、メールによる審議を実施し、下記の委員会にて最終調整を図った。(2003 年 9 月 4 日・5 人)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>近年の計算機環境の進歩充実により、シェル・空間構造の設計・施工における計算機利用は、構造解析の実体部分のみならず、プリ・ポスト処理からそれらを統合した対話型設計・制御などへと急速な展開を見せている。これらの利用実態を調査整理し、関連分野への技術者、研究者に最新情報として提供することを可能とするために、主として小委員会委員自らの活動および周辺への調査により、関連研究および事例についてとりまとめることが出来た。</p> <p>上記の成果を、次年度に出版物(「空間構造におけるコンピュータ利用の新しい試み」として取りまとめるべく、その準備を実施した。</p> <p>具体的には、4 つの分野に分けて、形状解析、設計形状の制御、さらに構造物の新しい解析法、それらを応用した大規模構造物の解析事例等について示す予定である。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>最終成果をとりまとめた出版物を刊行し(H16 年度予定) 引き続いてセミナーを開催することにより、空間構造における各種のコンピュータ利用に関する新しい試みを紹介し、その研究の成り立ちと将来への発展を述べる予定である。これにより、若い研究者や技術者の新たな領域への挑戦を促し、啓蒙することが出来、新たな視点でコンピュータ利用の試みを促進することが出来ると考えられる。本年度でほぼその準備を終え、当初の目標をほぼ達成できたと考えられる。</p>
その他評価すべき事項	